

技術交流会（第3回）—現場での技術交流会—開催される

プロジェクト対応グループ幹事
堀越研一（大成建設㈱）

関東支部企画の第3回技術交流会が、平成17年2月15日（火）に東京都足立区の東京地下鉄㈱綾瀬車両基地立体交差建設工事現場にて開催された。同工事は、車両基地直下を横切る都市計画道路トンネルをパイプルーフ工法を利用して建設するものである。線路（地表面）とパイプルーフ上端までの距離（土被り）は2.4mしかなく、高度な施工管理、計測管理が要求されている。道路の事業主体は、東京都足立区であるが、地下鉄直下の施工となるため、東京地下鉄㈱が足立区から施工を受託している。

技術交流会は、建設工事の見学を兼ね、同工事に関連した技術上の課題とその解決方法に関する話題提供をいただき、立体交差プロジェクトが抱える地盤工学的な課題を含めた自由討議を行うこととした。

まず、㈱地下鉄メンテナンス綾瀬工事監理所の石川所長からの御挨拶のあと、大成・西松建設工事共同企業体の山村学所長から、1時間近くにわたって同建設工事に関わる技術的説明が行われた。その後、実際にトンネル内に入り、施工状況の見学を行った。くしくも、技術交流会当日は、東西からのトンネルが線路直下で貫通した記念すべき日と重なり、貫通式で使用されたボードの前で参加者による記念撮影も行われた。

現場見学のあと、会議室に戻り、自由討論を行った。「現場計測管理結果が蓄積されるしくみとこの点に対する地盤工学会のサポートの期待」「計測管理結果を設計にフィードバックさせることによる設計技術向上」「計測管理と連携した高度な施工を行うことによる設計上の余裕度確保の必要性」などの議論が行われた。今後、都市部では、多くの立体交差プロジェクトが予想されることから、上記議論をさらに進めていく必要がある。

なお、本技術交流会は、東京地下鉄㈱、㈱地下鉄メンテナンス、および大成・西松建設工事共同企業体の方々からの多大なご協力のもとで開催されました。ここに厚く感謝の意を表します。



施工状況の見学



記念撮影